

1. 教育の責任

建築を学ぶ学生の多くは、「将来、建築業界で働きたい」というビジョンを持って入学している。したがって、まず建築の仕事に携わる社会的責任を学生に認識させる。その方法として、大学での授業に限らず、インターンシップや地域貢献など現場を通じた体験を行う。

2. 教育の理念

豊かな人間性と知識を持つクリエイターをめざす」とした建築 & 芸術学部の教育目標に対し、講義科目では、ディスカッションを通じた教員と学生の双方向授業を積極的に行う。一方、基礎知識を詳細に説明し、その内容を学生に「覚えさせる」こと、すなわち最低限必要な知識については「詰め込み授業」も必要である。ただその場合は、覚えるべき箇所を精選した上で、学生に「なぜ覚えなさいといけなのか」を理解させる必要がある。実習科目についても同様で、作品の基礎技術は「修得させる」、提案については「発想を誘発する」ことを理念とする。

3. 教育の方法

(1) 今年度実施科目の概要

<春学期>

設計製図演習Ⅲ(300) 2単位 16名

建築法規(300) 建築メジャー必修 2単位 87名

CAD 演習Ⅰ(200) 2単位 15名

<秋学期>

設計製図演習Ⅳ(300) 2単位 13名

建築計画Ⅱ(200) 建築メジャー必修 2単位 103名

(2) 担当科目の目的と目標

- ①設計製図演習Ⅲ…建築、町づくり生業とする者に必要な思考や技能を学ぶ演習であり、座学で得た知識を「再構成かつ統合する演習」として位置づける。
- ②建築法規…建築関係法令集の見方、使用されている用語を理解した上で、法文の意味するところを理解することを目的に行った。
- ③CAD 演習Ⅰ…1年次の基礎CAD演習の発展として、jw_cad およびイラストレーターを用いて3点のプレゼンテーションボード作成を行った。
- ④設計製図演習Ⅳ…公共性の高い建築の設計として、美術館、コミュニティーセンター、図書館の設計を行った。
- ⑤建築計画Ⅱ…建物に求められる機能が十分発揮できるような建築計画の技法について学ぶとともに、現在の社会が抱える空き家問題やエネルギー問題、さらに今後の建築に求められる「持続性」について考えた。

(3) 担当科目の授業内容と評価方法

設計製図演習Ⅲ…第1課題として、まず縮尺1/200の図面(敷地図、平面図、立面図、断面図)を美しく正確に、かつ効率よく製図するための練習として、オフィスビルの模写を行った。特に設計演習では、製図の前に「建物の立案を行うエスキースをいかにきちんと仕上げるか」が重要なポイントとなることから、既成の図面のプランをエスキースで表現する「逆エスキース」を課した。第2課題としてオフィスビル、第3課題として集合住宅の設計を行った。各課題の期間は5週間である。また、建築各論の講義科目である建築計画Ⅲ担当の教員に、講義内容を本実習に合わせてもらうよう依頼し、学生が講義科目で学んだ内容を実習科目の作品に生かす工夫を行った。成績評価は、まず作品提出の納期厳守を第1条件とし、期日遅れの作品はD評価とした。期限を守って提出した作品については、プランの妥当性、製図、模型の正確さ、美しさを基準として評価した。

建築法規…建築法規のうち、特に建築基準法を中心に講義を進めた。ただ建築基準法は非常に広範に渡るため、すべてを授業で取り上げるわけにいかない。そこで建築計画、構造、環境など他の授業にも関連する条文を選び、解説した。特に設計製図演習では、設計において必ず建築法規を遵守することが求められるので、本講義を履修する学生の多くが履修する設計製図演習Ⅲの課題

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：川窪 広明 作成日：2023年12月2日

進行に合わせて講義を進めた。また建築法規には法律特有の難解な表現が多く、一度の講義受講だけでは理解が難しいと考えられる。そこで授業ごとに課題として el-Campus 上での小試験を課し、振り返りを行わせた。さらに 2021 年の非対面授業時に作成したビデオ教材を改訂し、el-Campus から視聴することで、学生の復習に役立てるようにした。成績評価は、小試験 50%、まとめ試験 50%とした。

CAD 演習 I・・・3 クラス同時開講として、jw_cad によるインテリア計画、イラストレーターによる安藤忠雄設計の住吉の長屋および 1 年次の基礎製図演習 II で作成した自身の作品のプレゼンテーションボードを作成した。その中で建築のプレゼンテーションボード作成に必要な図面や写真の配置、加工に使用する CAD のコマンドについて詳細な解説を行った。成績評価は、作品提出期限の遵守、作品の仕上がり、教室でのプレゼンテーションを総合的に判断した。

設計製図演習 IV・・・課題の敷地を大学周辺に設定し、学生には課題に取り組む第 1 段階として、現地見学を行って周辺の環境や交通状況などを確認させるとともに、近隣にある既存の施設を見学させた。また各課題については、教員が自分のプランを作成して参考資料とした。評価方法は、設計製図演習 III と同様である。

建築計画 II・・・講義では教科書をガイドラインとし、できる限り最新の話題を盛り込む内容とした。また著名な建築家の作品、新しい建築作品を紹介し、学生の建築への興味の引き出しを試みた。本科目においては、建築を学ぶ学生として知っておくべき知識習得の一助として、講義の単元毎に資料を配布した。この資料では、重要な用語やポイントの部分を学生が講義を聴きながら自分で記入できるサブノート形式とした。また、講義期間中に 3 つのレポート課題（提出は任意）を課した。評価は、中間試験とまとめ試験の成績に加え、レポート課題の評価と授業中の発言を加点して行った。

4. 教育の成果

設計製図演習 III と設計製図演習 IV については、作品毎に個別指導を丁寧に行った結果、全体的に製図や模型の完成度が向上した。特に模型については、教員が実際に学生の前で部品作成や組み立てを行って見せてから、大きな向上が見られた。建築法規については、授業アンケートに el-Campus にアップロードしたビデオ教材を繰り返し見ること、難解な法律の表現が理解できたという意見が見られた。CAD 演習 I については、当初はクラス内の学生の CAD 操作にかなりの差が見られたが、授業終了時には苦手としていた学生にもかなりの進歩が見られ、最終課題は提出期限前に余裕をもって完成させた学生も数名いた。建築計画 II については、試験前に重要ポイントを解説し、記述式問題を出すので必ず自分で文章を書いてみるよう指導した。しかし、中間試験では 90 点以上得点した学生が 10%ほどいた反面、40 点以下の学生も 20%ほど存在した。そこでまとめ試験の前には、実際にポイントのまとめ方、文章の書き方について解説し、必ず自分で文章を書いてみるよう再度指導した。その結果、40 点以下の学生は 10%程度になった。

5. 改善への努力と今後の目標

設計製図演習 III と設計製図演習 IV では、提出期限を守らない学生が目立った。そのような学生は、前週からの進捗がなく、時間外の学習を全くしていない。設計プランの個別の指導を行った後、個別に具体的に次週までに行う内容を指示し、進捗管理を行いたい。建築法規では小試験の模範解答でいくつかのミスをしてしまい、混乱を招いたことがあった。教材作成上で十分なチェックを行う必要がある。また法規はしばしば改正されるため、政府の WEB などでもめに情報をチェックする必要がある。CAD 演習 I では、他の担当教員からも jw_cad は図面作成には最適だが、プレゼンテーションボード作成には向いていないという意見が出た。そこで次年度からは、使用ソフトウェアとしてイラストレーターを中心とした教材を作成することにした。建築計画 II については、学生の興味を引き出すため、身近なまちや建築を題材としたビデオ教材の作成を行おうと考えている。

【添付資料】

<シラバス>

建築法規

https://ssl-gw.otemae.ac.jp/up/faces/up/km/_DanaInfo=jaawg06.otemae.ac.jp_SSL+Kms00802A.jsp

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：建築&芸術学部 名前：川窪 広明 作成日：2023年12月2日

設計製図演習Ⅲ

<https://ssl-gw.otemae.ac.jp/up/faces/up/km/,DanaInfo=jaawg06.otemae.ac.jp,SSL+Kms00802A.jsp>

CAD 演習 I

<https://ssl-gw.otemae.ac.jp/up/faces/up/km/,DanaInfo=jaawg06.otemae.ac.jp,SSL+Kms00802A.jsp>

設計製図演習Ⅳ

<https://ssl-gw.otemae.ac.jp/up/faces/up/km/,DanaInfo=jaawg06.otemae.ac.jp,SSL+Kms00802A.jsp>

建築計画Ⅱ

<https://ssl-gw.otemae.ac.jp/up/faces/up/km/,DanaInfo=jaawg06.otemae.ac.jp,SSL+Kms00802A.jsp>